

アレルギー・アトピー患者の 「防災意識と日常生活行動」調査報告書 発刊にあたって

私共は2011年3月から2013年2月現在まで、東日本大震災による被災者（特に食物アレルギー、ぜんそく、アトピー性皮膚炎がある子どもたち）への、食物アレルギー用食物や、ケア用品等の物資提供を行っています。

2011年3月当初と現在では被災した人の状況は大きく変化してきています。日を追うごとに救援物資を求める人の数は減っていますが、避難先の変更や仮設住宅への入居、一般住宅への移転等、様々な生活環境の変化によって、体調が悪化する人、アトピー性皮膚炎の悪化などに見舞われる人、新たにぜんそくが発症した人、ネブライザー等の医療機器が故障し支援を求める人など、様々な状況の変化があり、いまだに救援依頼が絶えることはありません。

2011年3月当初は、「災害発生時の支援拠点や各種施設や行政機関と、地域の人々との日常的な結びつきが希薄であったために起こった連絡ミスやすれ違い」「保健センターや病院などの公的な施設への役割が集中しすぎたことによって、災害弱者（疾患のある人、乳幼児等）への支援が滞ってしまう」などの経験をしました。

食物アレルギー患者が食べることができる食物は、患者にとって医薬品と同等の価値があるにもかかわらず、そのことが社会的に理解されていないため、患者用の食物が患者に届くまでにはいくつもの困難を乗り越えねばなりませんでした。

本事業「アレルギーの子どもが直面する地域の課題研究」においては、「日常生活で想定される地域の施設の利用状況」「平常時に想定する災害時の備えについての態度（考え方）」について、患者（特に子ども）とその家族（特に母親）に焦点を当て、アンケート形式で実情を把握することを試みました。

行政、市民団体、NPOなどの様々な立場の方々が、それぞれの立場において防災ネットワークの構築や、災害弱者支援のための仕組み作りを検討する際に、「アレルギー性疾患などの慢性疾患がある人」の支援を念頭に入れていただくために、ささやかながら、基礎資料として役立てていただけるよう、研究調査報告書を提示したいと思います。

2013年3月

NPO 法人アトピッ子地球の子ネットワーク

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-9-19-207

TEL03-5948-7891 FAX03-5291-1392

E-mail:info@atopicco.org

http://www.atopicco.org/